

※次期公共交通計画策定に向けた参考資料☒☒

資料3

鳥取県東部地域公共交通計画 【概要版】

R4.3.25時点案（会議後修正）

現状の課題整理と基本的な方針（目指すべき将来像をふまえて）

<圏域全体の現状（課題）>

- i. 長大路線や並行するバス・鉄道のダイヤ重複による輸送の非効率
- ii. JR減便(R3.10、R4.3実施)
- iii. デジタル化・キャッシュレス化非対応
- iv. 人口減少・マイカー依存等に加え、新型コロナの影響等を受けた歯止めの効かない利用者減
- v. 高齢ドライバー増加
- vi. 安心して待合できる環境の不足
- vii. 中心市街地の賑わい不足
- viii. 公共交通事業者の経営基盤の弱体化、運転手の担い手不足
- ix. 共助交通の持続性の懸念

<課題を踏まえた基本方針>

- ① データに基づく圏域全体の交通体系見直しによる運行効率化、MaaSや先進技術等を活用した新たなモビリティサービスの導入による地域住民・観光客の利便性向上
- ② 移動の目的地となる商業施設等と連携した公共交通のメリット創出・訴求、待合環境の改善等、ハード・ソフト両面での利用促進・環境整備の取組の推進
- ③ 公共交通事業者の経営改革や魅力向上に資する取組に関する支援や新たな交通運営体制の検討・実施等を通じた、持続可能な公共交通サービス供給体制構築

<事業の3つの柱>

(1) デジタル技術等を活用した公共交通体系の抜本的見直し・利便性向上

(2) まちの活性化とも連動した公共交通利用促進

(3) 持続可能な公共交通サービス供給体制の構築

本計画が目指す地域の将来像

誰もがいつまでも安心して住み続けられる鳥取県東部地域の実現、公共交通利用環境の整備により、過度にマイカーに頼らなくても、

鳥取県東部地域公共交通計画（R4年度～） 事業イメージ

本計画が目指す地域の将来像

公共交通利用環境の整備により、過度にマイカーに頼らなくても、誰もがいつまでも安心して住み続けられる鳥取県東部地域の実現

計画の柱

計画の柱① デジタル技術等を活用した公共交通体系の抜本的見直し・利便性向上

データに基づく圏域全体の交通体系見直しによる運行効率化、MaaSや先進技術等を活用した新たなモビリティサービスの導入による地域住民・観光客の利便性向上を進める。

数値指標

- ・住民1人当たりの民間路線バス・鉄道・タクシー利用回数（年間）※柱②と共通
- ・路線再編を実施した民間バス路線数
- ・民間路線バスへのキャッシュレス決済導入率

計画の柱② まちの活性化とも連動した公共交通利用促進

公共交通はそれ自体が目的となることは少なく、基本的には移動目的の派生需要であることから、移動の目的地となる商業施設等と連携した公共交通のメリット創出・訴求、待合環境の改善等、ハード・ソフト両面での利用促進・環境整備の取組を進める。

数値指標

- ・住民1人当たりの民間路線バス・鉄道・タクシー利用回数（年間）※柱①と共通
- ・低床バスの導入率
- ・UDタクシー等の導入率

計画の柱③ 持続可能な公共交通サービス供給体制構築

公共交通事業者の経営状況が厳しさを増すなか、公共交通事業者の経営改革や職業としての魅力向上に資する取組に関する支援や新たな交通運営体制の検討・実施等を通じ、持続可能な公共交通サービス供給体制の構築を目指す。

数値指標

- ・路線バス・鉄道・タクシーの収支率
- ・地域交通体系維持に係る公的資金投入額

主な事業

i. データに基づく抜本的な圏域全体のバス路線再編

- ・定期的・定量的に把握された公共交通利用データに基づき、圏域全体の路線再編を検討・実施
- ・広域幹線・地域内交通の運行見直し基準の作成・運用

ii. 利用しやすい運賃制度・支払い方法の導入

- ・路線バスのキャッシュレス化の推進
- ・新たな運賃施策の導入

iii. MaaSによる地域公共交通のサービス向上

- ・MaaSによる地域住民・観光客の利便性向上。
- ・AI技術等を活用したオンデマンド交通の利便性・効率性向上
- ・わかりやすい案内表示への改良

iv. 公共交通の魅力・メリットの訴求

- ・企業や高校等と連携した通勤通学での利用促進
- ・商業施設等と連携したメリット創出 (Beyond MaaS)
- ・高齢者向け利用促進 等

v. 鉄道の利活用

- ・鉄道事業者と沿線自治体が協働した鉄道利用促進

vi. 快適な待合環境の確保

- ・バス等を快適に待つことのできる環境整備

vii. 公共交通のユニバーサルデザイン化

- ・駅やBT・交通結節点、車両等のハード面とソフト面双方のUD化

viii. まちづくりとの連動

- ・各自治体の関係部署と連携した施策の検討・実施

ix. 公共交通事業者の経営改革・生産性向上

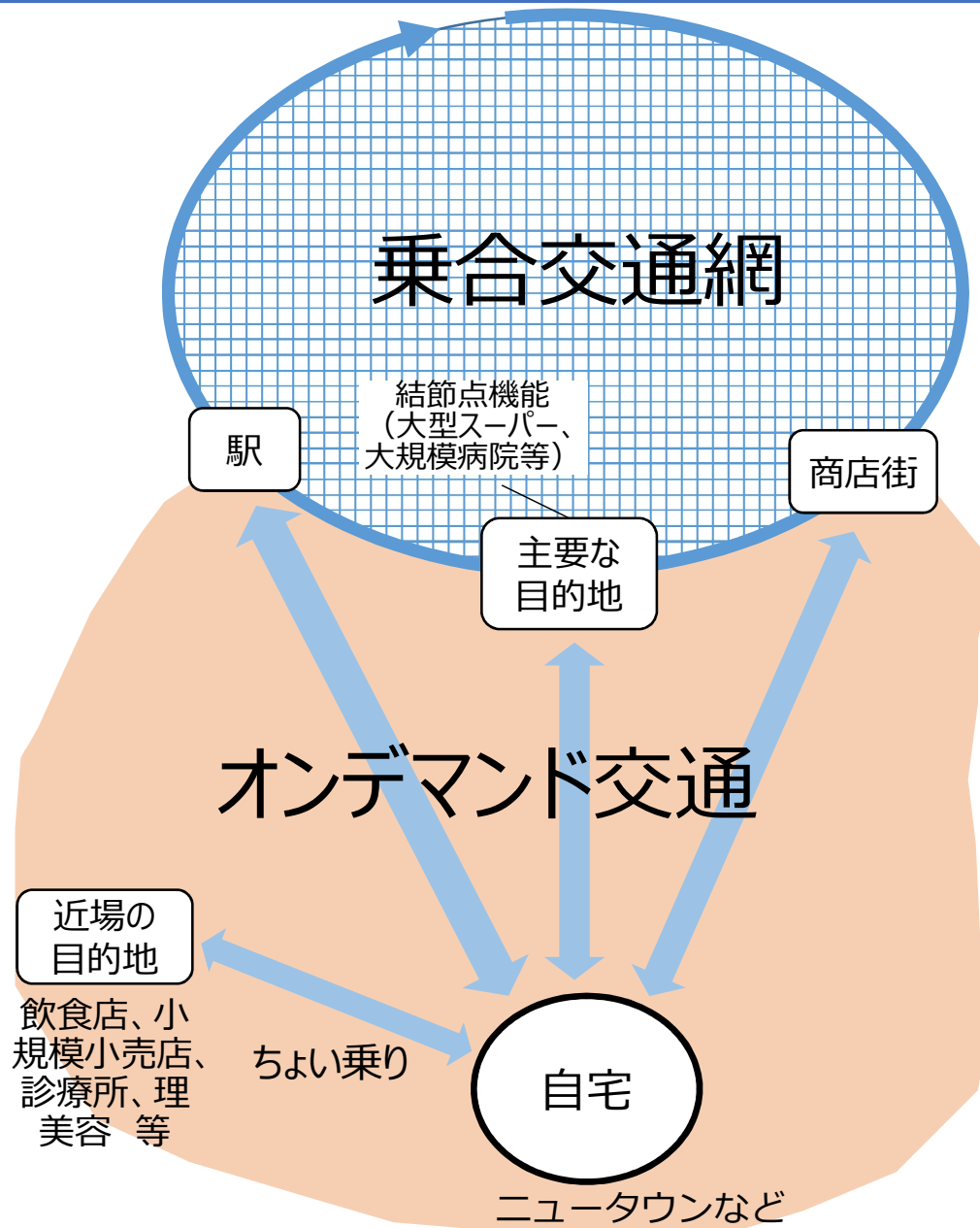
- ・セミナー等を通じた交通事業者の経営改革・生産性向上支援、採用力の強化による担い手確保
- ・新たな交通運営体制の検討
- ・住民ドライバーへの支援体制構築

x. 中山間地域における交通サービス供給体制の検討

- ・スクールバスや福祉輸送等も活用した生活交通の維持・確保

xi. 輸送資源の総動員

【抜本的な路線再編のコンセプト 5/6】 理想とする公共交通ネットワーク



- 幹線軸及び中心部に集中させる
- 主要な目的地を結ぶ
- 循環型・高頻度化を図る

- 乗合交通との組み合わせ
- AI相乗り
- ダイナミックプライジング
- サブスクリプション
- 目的とセットになった移動
- 多角化による生産性向上
- アプリ活用で気軽に使える
+顧客データ蓄積による改善

⇒ 割安感を出す、利便性向上、
ちよいり需要創出

【抜本的な路線再編のコンセプト 6 / 6】 交通体系の抜本的な再編によるメリット

①地域全体の交通運営が効率的になる

- ・中心部の公共交通分担率（乗合＋個別輸送）が上がり、乗合、個別輸送ともに収益率が上がる
- ・周辺部は、乗車率の低い乗合交通からサービス革新により効率化したオンデマンド交通に切り替わるので運営が効率化する

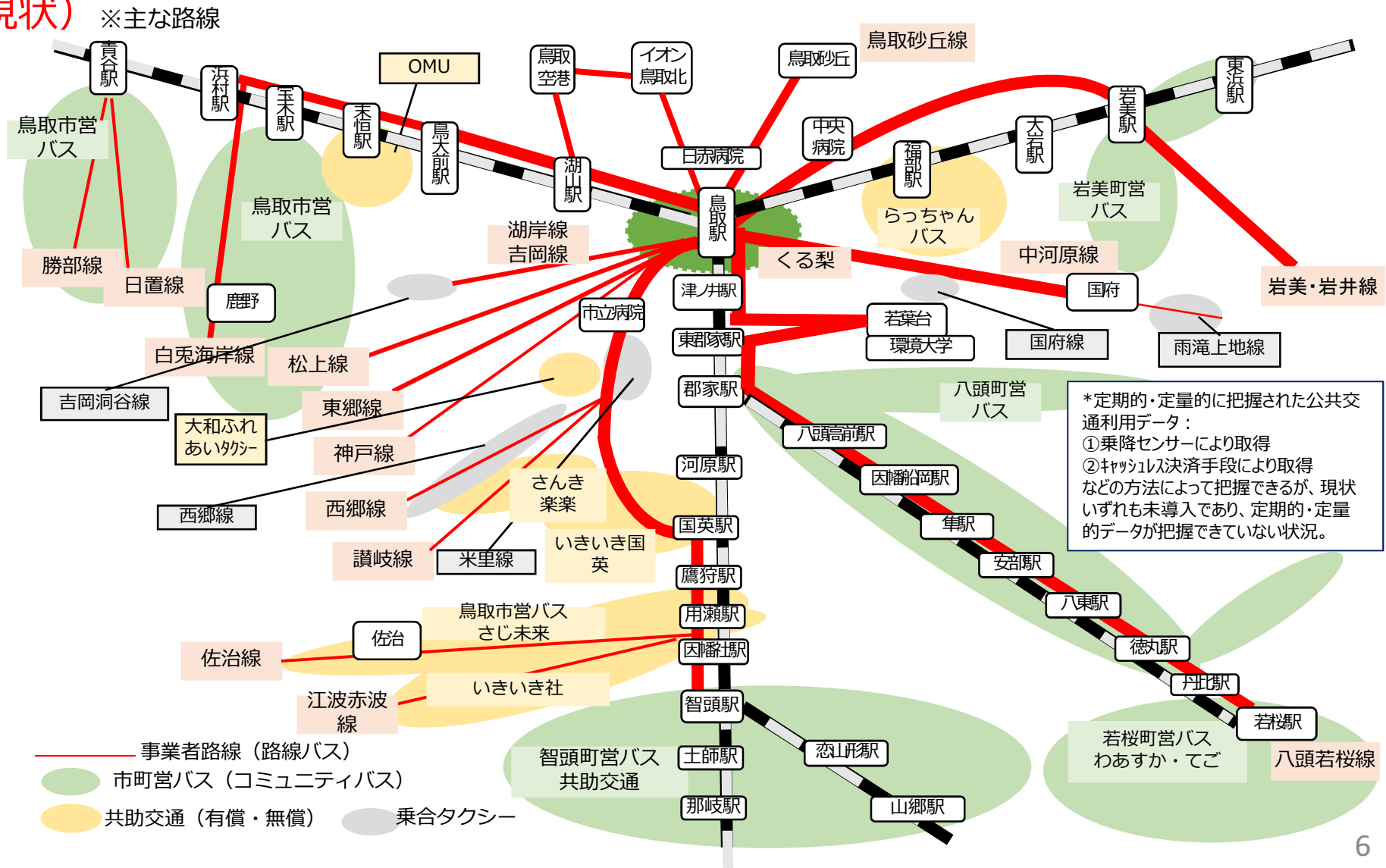
②公共交通の利便性が向上する

- ・中心部では乗合交通の密度が上がるとともに、オンデマンド交通のサービス革新が起こることにより、自家用車が無くても生活できるレベルに利便性が向上する
- ・周辺部では、頻度の少ない乗合交通からドアツードア移動が可能なオンデマンド交通に切り替わるので利便性が向上する

①デジタル技術等を活用した公共交通体系の見直し・利便性向上 (I) データに基づく抜本的な圏域全体のバス路線再編 1 / 3

- ・**定期的・定量的に把握された公共交通利用データ***に基づき、圏域全体のバス路線再編を検討・実施。
- ・実施にあたっては、「地域公共交通利便増進実施計画」を別途、作成。

(現状)



① デジタル技術等を活用した公共交通体系の見直し・利便性向上 (I) データに基づく抜本的な圏域全体のバス路線再編 3 / 3

(昼間のイメージ図) ※関係者と協議中の案

※データに基づき実施するため、データ分析の結果、対象路線・区間は変更となる可能性がある

